

福祉の総合専門誌

# 月刊福祉

8  
August  
2022

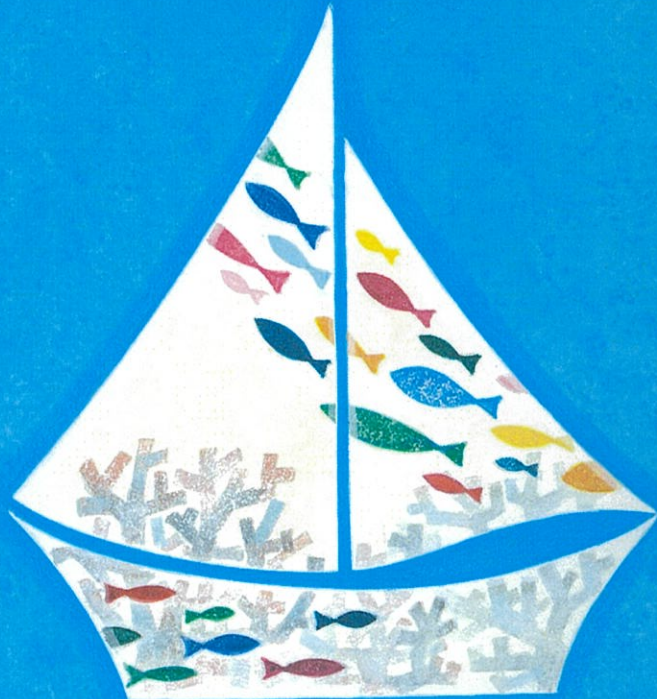
Monthly Welfare

■特集

## 地域における公益的な取組を広げ深める

座談会 公益的な取組を広げ深めるために欠かせないこと  
菊地 月香、橋本 達昌、澤登 久雄、関川 芳孝

レポート 多様な公益的な取組から見るこの先の展開



社会福祉法人 全国社会福祉協議会

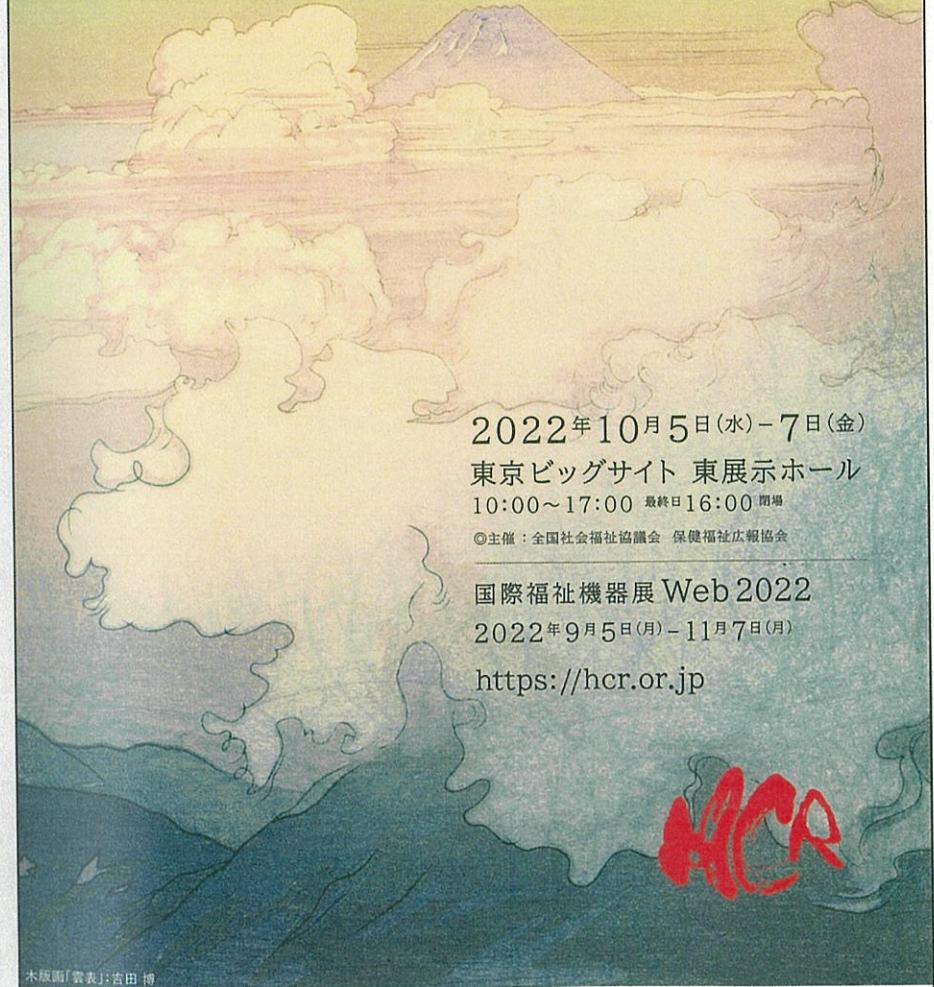
月刊福祉 022  
8  
Aug.  
特集 地域における公益的な取組を広げ深める

全社協

定価 一〇六八円（本体九七二円十税一〇%）

## 第49回 国際福祉機器展

International Home Care & Rehabilitation Exhibition 2022



2022年10月5日(水) - 7日(金)  
東京ビッグサイト 東展示ホール  
10:00~17:00 最終日16:00 閉場

©主催：全国社会福祉協議会 保健福祉広報協会

国際福祉機器展 Web 2022  
2022年9月5日(月) - 11月7日(月)

<https://hcr.or.jp>

本版画「雲表」：吉田 博



H.C.R.は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。



H.C.R.公式サイト

雑誌 03359-8



尽心庵の外観



尽心庵の居室内

## レポート 「困窮者への住まいの提供 —地域の中に「あったらいいな」を創造する

社会福祉法人みささぎ会 ソーシャルリレーション推進室 室長 淵本直志



地域の中に「あったらいいな」から  
生まれた**尽心庵**(無料低額宿泊所)

大阪府社会福祉協議会(以下、大阪府社協)の生活困窮者レスキュー事業(以下、レスキュー事業)。その入り口である総合生活相談を実施していくなかで、住まいがなく、仕事に就くことができない等の事例が多々あった。そこでみささぎ会は、生活困窮者自立支援法が施行された2015(平成27)年4月にソーシャルリレーション推進

室を立ちあげ、専任のコミュニティソーシャルワーカー(以下、CSW)を配置。総合生活相談をより積極的に推進し、社会的孤立を深めている人の居場所づくりをする役割を果たしてきた。

さらに2015年7月には、緊急を要する生活困窮者に対して一時的な宿泊場所や衣類を提供し、社会生活にリトライできる環境を提供する無料低額宿泊所「尽心庵」を開設。2017(平成29)年3月からは、大阪府下全市町村を対象に、一時宿泊所の賃貸借契約

を締結し、大阪府全域の行政担当者やCSWが、尽心庵を社会資源としてより積極的に活用できるようになった。

尽心庵には5居室あり、各部屋には、テレビ、エアコン、ベッド、テーブル等が完備され、家庭的な生活空間をつくり出している。立地場所は、みささぎ会の藤井寺特別養護老人ホームに隣接。尽心庵の利用者は、特別養護老人ホームの食堂で職員と一緒に食事や雑談をしたり、また、CSWだけでなく、法人の職員全員による支援体制がづく

られ、利用者が少しでも孤独を感じないようにしている。なお、職員の配置状況は、施設長1人、事務員1人、職員2人の計4人である。

### 社会福祉法人の強みを活かす

社会福祉法人は、生活困窮者のところに、行って、見て、聴いて、というアウトリーチと、フットワーク、そしてネットワークを駆使することが重要である。地域の中で「御用聞き」の役割を発揮し、地域福祉の担い手となることも期待されている。みささぎ会は、柔軟に対応できる民間性、信頼できる公共性、身近に相談できる地域性、専門職による相談や生活援助(食事、シェルター、入浴、交流スペース等)を行うことができる機能性という4つの特性を兼ね備えた組織であるからこそ、総合生活相談を積極的に推進することができている。この体制は尽心庵がで

きたことでより強化された。生活困窮者が既存の制度利用までの審査や手続きの期間の住居設定ができ、CSWの継続的な見守りにより、自立に向けた伴走型の支援活動が可能となった。

2015年7月の尽心庵開設以降、藤井寺市と近隣市を中心に他府県からのものも合わせた相談件数は92件、入所件数は38件にのぼっており、広範囲から相談があるのが特徴である。利用期間は1週間ほどの短い利用者もいれば、次の住まいが見つからず、なかには半年ほど利用された方もいる。

現在は新型コロナウイルス感染症拡大防止のために開催していないが、支援終了後の生活状況を把握すること、今後の支援に活かすことを目的に、年に一度、藤井寺特別養護老人ホームで食事会等を実施している。

### コロナ禍での支援事例から

図 ソーシャルリレーション事業



みささぎ会はソーシャルリレーション事業として、①災害支援ソーシャルワーク活動、②認知症予防・デリバリー事業、③ユニバーサル就労、④無料低額宿泊所、⑤居場所作り、⑥総合生活相談をトータルで展開している

顔の見えるつながり

信感を抱くこともない。いつでも、身近に相談できる相手がいることは、利用者にとって心強く、より前向きな気持ちになれるようになったことは、大きな成果であったと言える。

多様で複合的な課題を有する生活困窮者の支援においては、多くの機関がそれぞれの特性を活かしながら連携し、チームでアプローチを図ることが重要である。そのためにもふだんから地域のさまざまな関係者の「顔の見えるつながり」をつくる必要がある。

藤井寺市では、藤井寺市社会福祉施設連絡会（地域貢献連絡会）が中心となり、高齢・保育・成人・障害、行政（生活支援課）、社協（府社協・市社協）が事例検討会や研修会で顔の見える関係づくりに努め、行政、社協、民生委員や各福祉団体と連携を図っている。

また、みささぎ会では、地域住民等とのつながりを築いていけるよう、地域に Outreach の介護予防教室の開催、地域住民との防災訓練、地域清掃等、みささぎ会の活動を知っていただけでもう日頃から積極的に関わりをもつようになっている。そして、CSW が相談援助を行うレスキュー事業、就労の自

前述のレスキュー事業を通じてみささぎ会で相談を受け、尽心庵を活用したケース（コロナ禍により生活困窮状態に陥った人）をここでは紹介する。

対象…男性、50代、独居

特徴…精神障害、病气、無収入、不就業、生活保護、コロナで減収

紹介経路等…大阪府社協野宿生活者支援グループ（以下、野宿生活者支援G）巡回相談員から摂津市保健福祉部生活支援課へ情報が入り、2021（令和3）年1月26日、摂津市保健福祉部生活支援課より尽心庵利用の相談があった。本人に帰る家もないことから一時的な住居の調整が必要であった。

相談内容…2020（令和2）年12月、コロナの影響で就職したばかりの建設会社を解雇され、社員寮も追い出された。その後、摂津市内の公園で空き缶を集める等して生活していた。以前、大阪市生野区で生活保護を受給したこ

とがあるが、仕事をして自立した生活を送りたいと、2020年11月で生活保護を廃止したところであった。対応…相談を受けた日の夕方に尽心庵にて受け入れ。近隣クリニックでPCR検査を実施（翌日、陰性判明）。髪も伸びていたので散髪を行った。

2021年1月28日、摂津市ケースワーカー、野宿生活者支援G相談員、みささぎ会CSWにて支援調整会議を実施。健康面で問題がなければ摂津市での住居設定をすすめることで決定し、受診日程を調整。体調は特に問題ないが、持病（糖尿病、狭心症、高血圧）を抱えており半年以上受診していなかった。さらに、10年ほど前から統合失調症を患っている。2月2日に精神科を受診し、内服のみで在宅生活可能と判断されたため、摂津市での住居設定を予定通りすすめた。

2月12日摂津市で野宿生活者支援G相談員と一緒に物件を見に行き、3月

11日に転居が決定した。本人の就労意欲は高く、健康状態を医師と相談しながらケースワーカーが中心となり就労支援に関わる予定。3月11日に予定通り尽心庵を退所。相談できる窓口として、摂津市担当の大阪府社協の社会貢献支援員が考えられる。

この事例からわかるように、心身の健康の回復を図り、再び社会生活に戻れるように支援することが私たちの役割である。尽心庵が施設の目と鼻の先にできたことで、日々、職員が尽心庵の利用者と顔を合わせることができるようになり、ささいな相談でも、寄り添いながら支援することができるようになった。また、尽心庵を利用しての間は、担当のCSWが窓口となり、必要な機関に「つなげる」ことで、「いろいろな窓口で何度も自分の身の上話をしなければならぬ」等のストレスや、窓口のたらい回しによる疲労、不

立をサポートするユニバーサル就労、

本稿で主に取り上げた無料低額宿泊事業等の地域における公益的な取組を、ソーシャルリレーション事業として一体的に推進していくことにしている。

困りごとを抱えている人をできるだけ早期に発見、支援に結びつけることができるよう、今後もみささぎ会の地域における公益的な取組を、地域住民にどんどん発信していきたい。

〔注〕

※1 施設配置のCSWと大阪府社協所属の社会貢献支援員の積極的なアウトリーチ活動により、総合的な生活相談に応じるとともに、必要があれば各法人が拠出した基金から、簡易迅速な手続きにより、緊急の現物給付による経済的援助を行う事業。社会福祉法人がその人的・物的資源を活用し、コミュニティソーシャルワークを実践している。

PROFILE

渚本直志（ふちもと・なおき）  
桃山学院大学社会学部社会学卒業後、社会福祉法人みささぎ会に入職。社会福祉士、介護福祉士、介護支援専門員。2015年から「困っている人がいれば助ける」をモットーに、CSWの活動を実践している。